

「つなげよう 本・ひと・学校図書館（大阪市小学校教育研究会 学校図書館部）」の説明

スライド 1

大阪市小学校教育研究会 学校図書館部では、運営部と実践部に分かれて研究しています。本日は運営部からの発表です。

運営部では、「つなげよう 本・ひと・学校図書館」を研究主題としました。令和2年度施行となる新学習指導要領には、「学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図り、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を生かすとともに、児童の自主的・自発的な学習活動や読書活動を充実すること」とあります。主体的に情報を選択し、活用する能力を育成する学校図書館となるため、いっそうの整備・充実を図る必要があると考えました。学校図書館担当者はもとより、学校図書館補助員、読書活動支援ボランティア、公共図書館など、学校図書館を支えてくださる多くの方々と連携し、より機能的で蔵書の充実した「学習情報センター」「読書センター」としての学校図書館運営を目指して研究をすすめました。

スライド 2

★研究の方法として次の5点に取り組みました。

スライド 3

★1点目は「学校図書館運営計画」の実践です。

学校図書館に携わるすべての人にとって、月ごとにどのように図書館の運営を行えばよいのかが分かるように「学校図書館運営計画」を作り、表にまとめました。

スライド 4

★2点目は「学校図書館活用年間計画」の見直しです。

新しい学習内容に応じて年間計画も見直しを図っています。

スライド 5

★3点目は委員会活動の活性化です。

★4月の委員会編成で、先にお話した「学校図書館運営計画」を児童に示します。これをもとに、委員会の活動内容を計画することができ、初めて図書委員会担当になった先生も一年間の見通しを持つことができます。

スライド 6

★これは図書委員会の児童が作成したオリジナルの絵本です。完成した絵本は、児童集会で紹介し、このように学校図書館に展示しました。休み時間には図書委員会の児童がオリジナル絵本を読み聞かせしたり、展示している本を読みに来る児童の姿も見られたりしました。委員会の児童からは「自分で書いた絵本が図書館に展示されていてうれしい。」という声も聞けました。

★これは読書週間に行ったスタンプラリーの様子です。図書委員会で作成したスタンプラリーのカードに読んだ本を記録し、スタンプをもらいます。カードを学校図書館に設置されたポストに投函すると、後日図書委員会からしおりやぬり絵のプレゼントがもらえます。毎年スタンプラリーを楽しみにしている児童も多く、ポストに入れてプレゼントを待つわくわく感も人気の理由です。

スライド 7

★また、図書委員会の児童が学校図書館補助員や読書活動支援ボランティアと一緒に学校図書館でのイベントを計画、開催しました。

これは、図書委員会が夏休みの図書館開放で「しおり作り」のイベントを開いたときのものです。材料の準備や、作り方の説明など、補助員と一緒に協力しながら行いました。委員会の児童は、自分が補助員に教えてもらったように、低学年に優しく教えてあげる姿も見られました。参加者からは、「かわいいのができた！」「これを使って本を読む！」と、嬉しい声が聞かれ、委員会の児童からは、「みんなが喜んでくれて嬉しい！」とイベントの成功に自信をつけることができました。

★これは、ミニビブリオバトルに挑戦したときのものです。補助員やコーディネーターから、ルール説明や、発表のコツなどを教えてもらいました。また、補助員やボランティアにも、発表者として参加してもらうことができました。児童は、大人の話し方や紹介のしかたを見て、

★「聞き取りやすく話すことが大事。」「次はもうちょっとポイントを絞って紹介してみよう。」と次への意欲もわいたようでした。

このほかにも書評漫オグランプリに参加したり、図書館キャラクターの募集を行ったりするなど新たな取り組みも行うことができました。

様々な活動を取り入れることで、委員会活動を楽しく、いきいきとさせることにつながります。

スライド 8

★4点目は学校図書館補助員・読書活動支援ボランティアとの連携です。

より有効な連携を図っていくために、このような連絡ノートを作成しました。学校図書館主任と補助員、ボランティアとの連携、また、補助員とボランティアの連携を図るようにしました。

連絡ノートには、

★授業時間に来たクラス、休み時間ごとの学年別の来館者数、

★その日一日の貸出数と返却数、

★「新着本の整理をしました」などその日行ったことや気が付いたこと、引き継ぎたいこと、を書いています。そうすることで連携が密になり、学校図書館の運営が効率よく行うことができます。

スライド 9

★小中一貫校の学校では、読書活動支援ボランティアの方々に、朝の読書タイムを活用して、小学生から中学生の全学年に紙芝居や絵本を読んでもらっています。児童・生徒の発達段階を考えて紙芝居や絵本を選び、小道具なども使って、児童・生徒を物語の世界にさそいます。

★図書の時間をはじめ、さまざまな学習の中で、学校図書館補助員や読書活動支援ボランティアが絵本の読み聞かせやそのとき学習している単元に関する本の紹介やブックトークをしています。これは、児童の読書の幅を広げるきっかけ作りになります。

★また、図書館インフォメーションとして、新しく入った本の紹介や、読書感想文・読書感想画など、図書館に関するお知らせを掲示しています。

このように、学校図書館補助員や読書活動支援ボランティアとの連携を図ることで、

学校図書館を活用し、児童を読書の世界へ さそう工夫をより充実したものにすることができます。

また、こういったことをスムーズに行うためにも、先ほど紹介しました、連絡ノートが大いに役立ちました。

スライド 10

★5点目は授業実践です。

第3学年 学校図書館活用

「ビブリオクイズ！世界の物語を紹介しよう」という授業実践を行いました。

ビブリオクイズとはおすすめの本をクイズ形式で紹介する方法です。作者やあらすじなどについてクイズというゲーム性をもたせて紹介することで、より関心をもって楽しみながら読書活動を広げるためのものです。ビブリオバトルのようにディスカッションをする必要はないので、中学年でも取り組みやすい活動として、今後広めていきたいと思い、実践しました。

スライド 11

★第1次では、学校図書館に外国のことが載っている本がたくさんあることを知らせ、地図を見ながら身近な国やその国のあいさつを紹介しました。

★第2次では、ビブリオクイズという活動について説明し、指導者が実際にビブリオクイズを実践しました。本の紹介をする上で、クイズを取り入れながら、ポスターや紙芝居、読み聞かせ、漫才など様々な方法を用いて紹介できることを知らせました。ここでは、公共図書館からの団体貸し出しを利用して、児童はたくさんの本の中から自分が紹介する本を選ぶことができました。

★第3次の本時では、グループごとにビブリオクイズを行いました。世界のさまざまな国や地域の本の中から選んだ1冊について、本のあらすじや作者について紹介します。聞いている人が読んでみたいと思えるように工夫して紹介することができました。

スライド 12

★まず、環境づくりです。

児童がいつでも手に取ることができるように、たくさんの本を公共図書館から借りました。

借りる本については学校図書館補助員にも相談し、児童の実態に合わせた本を選書することができました。

スライド 13

★いろいろな国への興味を高めるきっかけの一つとして、外国製の本やおもちゃにも触れられる環境を設定しました。学級には外国にルーツをもつ児童もおり、保護者の協力を得て色々な外国のグッズをお借りし、多文化理解の手立てにもなりました。

児童は見慣れない文字や、その土地の特色あるデザインなどに興味を示し、その国の物語を探して読んだり、本を読んで知りたくなった国のおもちゃを手にとってみると、物語の世界をより一層楽しむことができました。

スライド 14

★これは読書記録と世界地図です。

本の表紙には、地域ごとに色分けし、国名を表したラベルを貼りました。

読書記録や世界地図を活用することで、国の場所や地域を確かめながら、よりたくさんのお書を読もうとする児童の姿が見られました。

スライド 15

★授業実践の様子です。

インドの物語「ランパンパン」を題材にビブリオクイズを行っているところです。本の表紙を提示しながら、手作りのポスターを使って紹介しました。本の作者やインドはどんな国なのかを説明し、本のあらすじをクイズ形式で話します。クロドリがたくさん仲間と力を合わせて女房を助けるお話です。さて、クロドリが最初に仲間にした動物はだれでしょう？

一度本を読んだことがある児童も「インドって人口が多い国なんだ」と初めて知る驚きや、「最初の仲間はだれだったかな？」と考えながらクイズに参加していました。では実際のビブリオクイズの様子をご覧ください。

スライド 16

★それぞれのグループの発表が終わるごとに感想を書いておき、読みたいと思った気持ちの分だけ拍手をして評価しました。児童はみんなの拍手の大きさに「本の面白さが伝わった」という実感をもつことができました。「拍手が予想していたより大きくて、とても嬉しかった。」という感想をもった児童もいました。

スライド 17

★その後、ビブリオクイズの感想を交流しました。

★「問題の出し方が上手だった。」

★「ポスターの絵を指さして話すと分かりやすい。」

など、ほかのグループの発表の工夫に気付くことができました。

スライド 18

★また、「一度読んだことがある本も、もう一度読みたい。」という感想や

★「心が優しくなれる 本なら読んでみたい。」という感想をもった児童もいました。

本の紹介が「読みたい」という気持ちにつながり、読書をさらに広げていきかけとなりました。

スライド 19

★授業実践後に作成したクイズやポスター、紙芝居を学校図書館に展示しました。

「他の学年の人にも教えたい。」「友達にも話してみたい。」など指導者が思っている以上に児童が、この学習に興味を持ったので、学校図書館補助員に協力していただき、展示スペースを作りました。クイズとともに本も展示し、気になった本は手に取って読めるようにしました。

スライド 20

★放課後の図書館開放に参加していた中学生が、本の紹介を載せた地図に興味を持ったり、自分の作ったクイズを他学年の生徒に出していたりと、様々な学年へと読書活動が広がっていきました。

スライド 21

★実践を終えて

★指導者と学校図書館補助員、公共図書館と連携を図り、授業に合った選書を行うことができました。

★図書が充実した中、学習を行うことができたので児童に学習意欲を持たせることができました。

★学年の実態に合わせてクイズを取り入れた活動を行ったことで、発表する時も、聞くときも楽しんで活動することができました。今後、ビブリオクイズが中学年でも取り組める活動となり、学年が上がっていくにつれビブリオバトルや書評漫才などの活動につながっていく可能性を感じました。

★活動後にポスターや本の展示を行ったことで、他学年の小中学生もビブリオクイズへの関心を広げることができました。中学校の読書活動にもつながりました。

★ビブリオクイズの活動後、児童からは「いろいろな国のことを知ることができて良かった」「お楽しみ会でもやってみたい」「他の学年や先生が考えたビブリオクイズを見たい」「自分の好きな本をビブリオクイズで紹介したい」という声があり、読書活動の広がりも見られました。

★今回の授業を通して学校図書館に多言語で書かれた図書も計画的にそろえていく重要性を感じました。

スライド 22

最後にいくつかのグループのビブリオクイズの様子をご覧ください。

★今回の授業実践につきましては、お手持ちの資料に指導計画を載せていますので、ご活用いただければ幸いです。ご清聴ありがとうございました。